

スズメはどこで、なぜ減少しているのか ～住宅の新旧による影響と、減少している地域の土地利用変化～

○三上修¹・三上かつら²・松井晋³・森本元^{3,4}・上田恵介³

(¹岩手医大・共通教育, ²バードリサーチ, ³立教大・理, ⁴東邦大・東京湾生態セ)

スズメ *Passer montanus* の個体数が減少しているといわれている。複数のデータがそれを示しており、総合的に考えると、この 20 年間で少なくとも半減していることが確からしくなってきた。では、なぜスズメは減少しているのだろうか。その答えのひとつとして、都市化が考えられる。なぜなら、農村よりも住宅地で、そして住宅地よりも商用地で、巣立ちヒナ数が少ないことが調べられているからだ。具体的に都市化の何が減少に効いているかはわからないが、緑地の急激な減少など、近代に特徴的に見られる都市環境の変化が、スズメの繁殖成功を下げているのかもしれない。

しかし他にも要因が考えられる。それは、近代の都市化によって気密性の高い家が増え、そもそもスズメが営巣できない、というものだ。そこで、この点について、住宅地の新旧とスズメの繁殖密度を比べることによって検討した。

さらに、どのような環境変化が起きるとスズメが減少するのかを把握するために、第 2 回と第 6 回の自然環境保全基礎調査のデータから、スズメがどこで減少をしているかを調べ、その間の土地利用の変化を見ることで、スズメが減っている地域の特徴的な環境変化について解析した。

今回の発表ではこの 2 点から、スズメの減少要因について検討する。

(本研究は三井物産環境基金より研究助成をうけて進めています)